

## 日本あちこち河川遡行記 (第 299 回)

大阪 2-3. 東除川 (その 1) 令和 1 年 11 月 8 日 (金) 晴

今日も天気晴朗、風無し。新たな川「東除川」に向かう。西を終えて東を除けるわけにはいかない。いつもより 1 時間以上早い「こだま」に乗るため早起きをするが、日の出が遅くなり起きるのも辛い季節になった。



01.今回調査区間位置図



02.大阪メトロ路線図の右下の端から二つ目の駅に下車

新大阪からラッシュの御堂筋線の新大阪始発の電車に乗る。これなら楽楽座席に有りつく。ほど良く乗り発車、梅田でどどーっと乗って来てたちまち超満員に、淀屋橋と本町でどどーっと降り、心斎橋と難波でどどーっと降りてガラガラになる。天王寺で谷町線に乗り換えるためアップダウンの連絡通路を歩く。八尾南行きの電車はラッシュが過ぎ、都心と反対方向に向かうのでガラガラ。終点の一つ手前の「長原」で下車。ここは大阪市の南東部の外れで、今日の東除川の最初の橋「明治小橋」に一番近い鉄道駅なのでここにした。

エレベータで上の道路に出る。目の前にローソンが有るので昼用のサンドと飲み物を買って交差点を西に渡る。なんとこちら側にもローソンが有る、「ちかー!」。道路は中央環状線で真ん中には近畿道が高架橋で続いている。この広い道路が町を分断している所以両方に同じ R があるのだろう。大阪市内を通る高速国道はこの近畿道だけで、ほんの一部だけが平野区の外れを通過し、ここ長原だけに IC が有る。他の政令都市には市名を冠した IC が有るが大阪には無いのだ。地下鉄は市外へ路線を伸ばし、堺、八尾、東大阪、門真、守口、吹田の各市に足を入れている。大阪市の市域の狭さがこれで分かる。

南西の大和川に架かる明治橋に向かい住宅地の中を歩くと立派な石鳥居が家々の間に立つ「志紀長吉神社」の入り口の前を通過する。直近に来るまで気が付かない神社だ。橋に向かう道路を南に歩いていると大阪バスのバス停が有り、まもなく橋の方に向かう便が有るのを知る。遅かりし由良助！だ。



03.志紀長吉神社の参道が南北に続く

駅から1.5kmほど歩いて明治橋に着く。本流遡行時に見た橋を渡り、連続して東除川に架かる「明治小橋」に向かう。ここまで交差点角から更に2つのRが有り、7もFもお呼びでない。本流の土手の直ぐ南に東除川が西に本流と合わせて流れている。増水時の合流をスムーズにするための平行合流だ。



04.東除川は大和川と暫し平行に流れる

この辺りは大阪市が大和川を越えて松原市に喰いこんだ地域で、かつて大和川を強制的に付け替えた名残だ。南側の川沿いにを東に進み、川が南からの流れになる近くに来ると近畿道、西名阪道、阪和道と阪神高速14号松原線が交差、接続する巨大な松原JCTが有る。

松原市内に入り進むと大阪府警独特のコンパクトな形をした交番に出会う。

府内ではよく見かける顔である。直ぐ裏には「恵我小学校」の大きな校舎が建っている。交番近くの通学路の橋の真ん中にはベンチが置いてある。川沿いの道は狭く椅子を置くスペースも無いのでここで暫し休憩する。



05.大阪の交番はこの形が標準だ



06.橋の真ん中にベンチが

右岸と左岸を代わるがわる変え南下する。災害発生の危険が生じた時の避難所の案内板が川沿いに何度も見かける。松原市はやりまん一。先ほどの恵我小は川沿いに有るので「洪水」時の避難場所から外されている。

川沿いの細長い大きな墓場の横を通過する。墓石の頭が四角錐になっている戦死者のお墓が軍隊での階級により大きさが違うのが判る。死んでも兵と士官との差が有るんだ。墓を過ぎると河内松原市から羽曳野市に入る。再び墓が現れ、墓と川の間がミニミニ公園になっておりベンチも有るので昼休みとする。墓前飯だ。



07.恵我小は川沿いなので洪水は対象外



08.川と墓との間のベンチで昼休み

羽曳野市は橋の中央に橋名板を取り付けるのがお好きなようで親柱には無い

橋が多い。右岸側を進むと川又は水路を埋めたような姿の遊歩道が東に向かっている。気になるので帰宅後航空写真を見るとどうやらかつての大きく蛇行していた川をショートカットした川の跡のようだ。



09.橋名板が橋の中央に、大阪はこのパターンが多いな      10.この遊歩道は多分川の跡利用だろう

左岸側の近鉄南大阪線の鉄橋の横を潜り次の橋で再度右岸を進む。この辺りは「高鷲」地区で南大阪線に同名の駅がある。松原市では「たかわし」と読むが、岐阜県郡上市となった旧「高鷲村」は「たかす」と読んでいたのを思いだす。左岸側の護岸が災害で崩れた跡を大きな土嚢を積み上げた応急復旧工事が完成している。いつ受けた災害なのか判らないが素早い対応である。

川の両側には常に道路が並走しており、川への転落防止のための防護柵とフェンスが延々と張られている。安全第一だが親水感は起きにくいな。



11.護岸の応急復旧工事が完成      12.川の両側の道路には防護柵とフェンスが続く

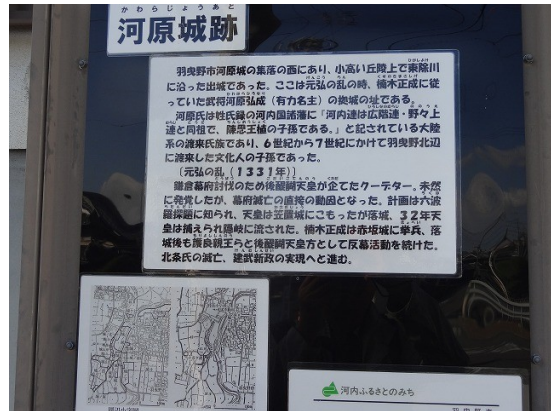
中央環状線を横断すると橋名は「新伊勢橋」とあり、次の市道は「伊勢橋」となっている。堺から大和を経て伊勢に向かう街道だったのであろう。これまでほぼ平坦な低い台地を掘割のように川が流れていたが、左右に低い丘が現れる

住宅が切れ目なく続いてきたが切れ目が現れ、田畑もぼつぼつ現れる。郡戸（こうず）地区に来ると彼方に高い無線鉄塔が2本離れて立っている。帰宅して調べるとどちらもNHKラジオの送信所であるが、AMとFMの違いかな？

川が直角に曲がる北西側の角に地蔵堂らしき小屋が建っている。近づいて見るとこの西側の丘の上には「河原城」が有ったとのことで付近の古い地形図も時代を変えて添付されている。「丹比小学校」だけは変わっていない。



13.西の彼方に2本の鉄塔が立っている



14.古い地形図が付いている解説

堺市美原区に入り、南阪奈道路を潜り何とか第一候補の大阪橋のバス停にたどり着く。杖を突きつきの遡行となった。5分後に30分毎に来る小型近鉄バスがやって来て「恵我之荘駅」に向かう。駅付近は1.5車線の狭い道で小型バスしか走れない。踏切で停まっているバスの狭い横を通過し直ぐの駅に向かうと阿部野橋行きがやって来て直ぐに乗り込む。これで何度目だろう電車に飛び込むのは！



15.「大阪橋」バス停から恵我之荘駅に近鉄バス

で

本日の歩行距離：9.5km。調査した橋の数：41。

総歩行距離：10,654.6km。総調査橋数：13,814。

使用した 1/25,000 地形図：「大阪東南部」（和歌山 5 号-3）、「古市」（和歌山 5 号-4）